

# 保育総合研究会広報誌 NO. 50


発行所： 保育総合研究会事務局 平成24年 10月10日  
茨城県東茨城郡茨城町上飯沼1276-1 飯沼保育園  
TEL029-292-6868 FAX 029-292-3831  
発行人： 会長 梶沢幸苗



平成24年9月3日(月)午後1時より三重県鈴鹿サーキットにおいて、第42回定例会が行われた。

開会、会長挨拶後、当会副会長 坂崎隆浩より、保育を取り巻く状況報告及び当会会長 梶沢幸苗より基調報告として歳見別冊子「保育ドキュメント」についての講演があった。



 <テーマ> 乳児保育から保幼小一環まで  
<講師> 東京成徳短期大学 幼児教育科学教授 寺田 清美 氏

(保幼小の連携について)

乳幼児教育とは生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもので生きる力の基礎となる。そのため豊かな環境の中で生活や遊びを通し様々な経験をすることにより学びが深まる。学びが深まる環境であるか否か見直すことが大切である。保幼小連携もお決まりにならず見直す必要があります。



乳幼児からの発達の連続と様々な経験が小学校の教科教育へと連続されていく。つまり小学校から教育がスタートするのではなく、例えば、保育士がおむつを替えるという養護の中で、黙っておむつを替えるのと、教育的視点をもっておむつを替えるのとでは違ってきます。教育的視点をもって意識的に行うことで(健康)はもちろんのこと(人間関係)や(言語)・(表現)の育ちに繋がっていきます。さらに子どもの遊びは、小学校の教科に繋がっていく基礎の経験でもあります。このような内容が知られてなく理解されていないことが問題であります。まずは小学校の教諭に理解してもらうために保育士と教諭の連携が重要であります。

また、法的にも位置づけられている要録は小学校との連携の切っ掛けづくりになります。要録の重要性を、理解し書き方等のスキル向上をめざしその扱い方を双方で見直すことも重要な1つであります。

連携における視点として①生活していく視点②人と関わろうとする視点③学びの芽を育む視点④保護者対応の視点の4つをとらえていく必要があります。子どもの育ちをつなげるためにも、保幼小の連携は重要であります。

(ゆるやかな接続・段差の解消のために)

小学校とのなめらかな接続のために保育所はアプローチカリキュラムを年長児の後半の指導計画に位置付ける。①生活する力は時計の針が0のところになったら00をする等一日の流れを意識させること。②関わる力としては、友だちと一緒に何かをつくり上げていく。③学ぶ力として、物には金額がありお金のやりとりができる等何が必要であるかを学ぶ。④協同的な学びも必要であり以上のようなことが育っていくように計画します。

一方小学校に於いては、なめらかに接続できるように4・5月にスタートカリキュラムを計画します。わくわくドキドキできる体験や最初から45分授業ではなくモジュール授業を取り入れます。モジュール授業とは15分刻みに興味のあるところのクラスにはいって授業を受けてもよい絵本を読んで国語の授業、また体操して体育の授業としていきます。複雑な処理は、モジュールのソフトがあるので15分ずつ総合した結果教科授業に反映できます。

またこの時期は、他の学年も1年生を組み込んだ授業を行い学校に来るのが楽しくなり教科が少しずつ入ってくる工夫をします。

接続カリキュラム実施のために、子どもの最善の利益を考慮しながら大人がつながり連携をもちます。そのために、園長や校長がリーダーシップを発揮して互いに理解して担任だけでなく全体で主体的に取り組むことが重要であります。

互いに、連携とはなんであるか再度原点に戻り連携をデザインしていくことが重要だと考えます。



## お知らせ 第43回 定例会開催について

平成24年11月3日(土)午前9時30分より、青森県東通村「こども園ひがしどおり」において、第34回定例会が開催されます。

講師は、厚労省雇用均等・児童家庭局保育課 幼保連携推進室長 北山浩士氏を予定しております。

晩秋の本州最北端、下北半島でお待ちしております。

